

県立高等学校専攻科の存続を求める鳥取県高等学校PTA連合会の陳情について

平成19年12月21日
高等学校課

1 設置校

- 倉吉東高等学校専攻科（昭和36年4月設置）
- 鳥取東高等学校専攻科（昭和34年4月設置）
- 米子東高等学校専攻科（昭和35年4月設置）

2 経過

- 平成17年6月定例県議会において、鳥取県私立学校協会からの陳情「県立高等学校専攻科の廃止について」が研究留保
- 県立高等学校PTA会長が連名で、「県立高等学校専攻科の存続について」要望書を提出（東部地区：6月、中・西部地区：8月）
- 平成17年9月定例県議会において、「県立高等学校専攻科の存廃に関する決議」

- 募集定員は、平成17年度より1校あたり少なくとも10人減とすること。
- 少なくとも平成20年度までに、専攻科を廃止すること。ただし、中部地区については、私立予備校の現状を踏まえ、専攻科の存廃を含めて検討を進めること。
- 特定の高等学校以外の高等学校の卒業生にも入りやすい選抜方法の改善に努めること。
- 授業料については、所得に応じた負担軽減や私立予備校との格差是正を含めた改革を早急に行うこと。

- 平成17年11月、「県立高等学校専攻科の廃止・縮小について」決定

- 鳥取東高等学校と米子東高等学校の専攻科については、平成18年度から募集定員を、50人（△10人）とした上で3年間募集を継続し、平成21年度から募集停止とする。
- 倉吉東高等学校については、平成18年度から募集定員を、70人（△10人）とした上で3年間募集を継続する。その後の存廃については、当該地区の生徒のニーズ等を勘案しながら、平成20年度までに判断を行う。

3 現状

- 平成19年11月9日、鳥取県高等学校PTA連合会長が、教育長に対し「鳥取東高等学校、倉吉東高等学校、米子東高等学校に設置されている専攻科の存続について」陳情
※その他の提出先： 県議会議長・教育民生常任委員会委員長（11月8日）
知事（11月9日）
- 平成19年12月4日、教育民生常任委員会において陳情に関する勉強会（県教育委員会に対して）
- 平成19年12月6日、教育民生常任委員会において陳情に関する勉強会（鳥取県高等学校PTA連合会に対して）
- 平成19年12月18日、定例県議会において、鳥取県高等学校PTA連合会長からの陳情「鳥取東高等学校、倉吉東高等学校、米子東高等学校に設置されている専攻科の存続について」が研究留保

4 今後の対応

陳情の採否を決定し、相手方に通知

- 鳥取県教育委員会会議規則（昭和31年教育委員会規則第13号）
第26条 請願および陳情があったときは、委員長は会議にはかかって採否を決定する。
- 鳥取県教育委員会請願規則（昭和55年教育委員会規則第2号）
第3条 請願書が提出されたときは、委員会はその採択の可否を決め、審査の結果を教育長を経て請願者に通知するものとする。
- 第5条 陳情書、歎願書等請願書に類するものにもこの規則を適用する。

平成19年11月9日

鳥取県教育委員会
教育長 中 永 廣 樹 様

鳥取県高等学校PTA連合会
会 長 池 成 幸 吉



鳥取東高等学校、倉吉東高等学校、米子東高等学校に設置されている
専攻科の存続について（陳情）

要旨

2005年（平成17年）に「鳥取東高等学校と米子東高等学校の専攻科は平成21年度から募集停止、倉吉東高等学校の専攻科の存廃については、当該地区の生徒のニーズ等を勘案しながら、平成20年度までに判断を行う。」と発表のあった標記県内3校の専攻科を2009年度以降も存続していただきますようお願いいたします。

提出の理由

専攻科は1959年（昭和34年）に鳥取東高等学校に、1960年に倉吉東高等学校、1961年に米子東高等学校に設置されました。この専攻科制度は鳥取県が他県に誇れる優れた制度で、ここで学んだ生徒達が大きく力を伸ばし、大学卒業後も県内はもとより国内、海外で大きく羽ばたいている数多くの人材を輩出して参りました。

この専攻科が廃止されようとしていることに対し、現在高校2年生、1年生およびその保護者から大変心配する声があがって来ています。

私達、鳥取県高等学校PTA連合会はこの多くの人達の声をも何とかしなければとの思いでここに改めてではありますが陳情させて頂くものであります。

本県の専攻科は、以下の理由により、大学等への進学を目指す生徒たち、保護者にとってかけがえのない存在であります。

（1）経済的格差拡大の中での進路選択の拡大

経済状況の厳しい家庭の生徒に対し進路選択肢の拡大が可能となります。全国的に見ればバブルの崩壊のトンネルから抜け出す光が少し見えて来たと言われていますが、ここ鳥取県においてはまだまだその兆しは見られず、勤労者の収入は年々減少し、高校生をもつ家庭の教育費は重く家計にのし掛かっています。その1例として現在、高校に在学する生徒の授業料減免者数は増加し、平成18年度では約20%が減免を受けている実態もあります。

しかし、産業界、経済界では高度な学力やたくましく生きる力が要求され、これに応えられるしっかりした力をもった若者が求められております。

進学を目指す普通科高校は勿論、専門高校でも50～60%の生徒が上級学校への進学を目指していますが、経済的に苦しい家庭の子弟にとっては県外の予備校は疎か、県内の予備校でさえも学校に納入しなければならない必要経費は専攻科に比べて2倍近くもかかり、専攻科が無くなれば指導を受ける所が無くなり、大学等への進学を断念せざるを得ない生徒も少なくなく、専攻科はこれらの生徒たちにとって未来の選択肢を広げる貴重な存在であります。

(2) 安心感のある学習環境・生活環境

受験生にとって生活の場である学習環境は、学習を進める上で極めて大切です。県外の予備校に出れば大きな経済的負担がかかるだけでなく、生活環境が大きく変わるため新しい環境に慣れるまでに多くの時間が必要であると共に、自分に適した場所がなかなか見つからない場合も少なくありません。これに比べて自宅から通学できる専攻科であれば今迄の生活の延長線上で学習に励むことができ、受験生にとってとても有利です。

(3) 専攻科の優れた進路指導

専攻科は、県内の高校と密接な連携を保つことで、生徒の高校生活の状況、学習実績を見据えた指導を行うことができ、これまで、大きく学習効果を上げてきました。生徒の様々な事情で、目標とする進学先にあと一步で涙をのんだ生徒も少なくありません。専攻科ではそのような生徒の3年間の生活状況、学習状況をよく知っている高校の教師が指導に関わるので、生徒の持つ悩みや、高校3年間で学習の不足している部分への対応が細かくでき、子どもたちは学習のこと以外でも幅広い指導が受けられ、学習実績が大きく向上している結果も出ています。県内の専攻科修了生の大学合格者に占める難関校合格率の高い数値がそれを物語っています。

(4) 県内予備校の進路実績への不安

専攻科が無くなった場合、県内の予備校が浪人生を主体とした大学進学への指導において現在の専攻科と同様の実績を期待できるか疑問であります。平成17年の専攻科に係る方針決定以降、予備校自身も自助努力され、生徒にとって魅力ある進学指導体制に努めて来ておられることは承知していますが、その実績を見た時に些か不安を感じます。県内予備校が浪人生、その保護者のニーズに合致し、県内の東・中・西の各地域において、各々の専攻科と同等以上の実績を出されなければ生徒、保護者の不安は解消できません。

(5) 県の公教育の独自性

地方と都市の格差がますます拡大していく中で、鳥取県の活力を持続的に支えていくためには、大学等の高等教育機関への進学を高め、国内外で多方面にわたって21世紀をリードする人材を輩出し、企業の誘致、Uターンの促進につなげることが必要と考えます。より高い目標に向かって、努力をし、次代を担う生徒たちを公教育でしっかり支えることも必要であります。まさに、専攻科は、地域格差の中にあって、全国に誇るべき鳥取県の公教育の独自性を示すものであります。

以上の点から見ても、専攻科は大学等への受験を目指す生徒達にとって、不可欠な存在として今迄その使命を果たしてきています。

専攻科のある3校に在学する生徒、保護者は勿論、それ以外の学校の多くの生徒・保護者からも専攻科存続の声は強く、専攻科を存続してくださいませう、県内各高等学校PTA会長の総意で関係の皆様をお願いする次第であります。

また生徒、保護者に対して実施したアンケート調査の結果も資料として添付させていただきます。

鳥取東高等学校PTA会長	宮本 孟尚	倉吉農業高等学校PTA会長	福田 政巳
鳥取西高等学校PTA会長	池成 幸吉	倉吉総合産業高等学校PTA会長	北中 善隆
鳥取商業高等学校PTA会長	谷本 清通	鳥取中央育英高等学校PTA会長	津川 俊仁
鳥取工業高等学校PTA会長	田中 慎一	米子東高等学校PTA会長	松村 順史
鳥取湖陵高等学校PTA会長	稲村 志延	米子西高等学校PTA会長	小原 孝広
青谷高等学校PTA会長	角田 完	米子高等学校PTA会長	徳岡 章高
岩美高等学校PTA会長	吉田 登志	米子南高等学校PTA会長	本池 辰郎
八頭高等学校PTA会長	藤江 義康	米子工業高等学校PTA会長	橋井 満義
智頭農林高等学校PTA会長	谷口 雅人	境高等学校PTA会長	空野 高幸
倉吉東高等学校育友会会長	寺坂 和利	境港総合技術高等学校PTA会長	渡邊 宏道
倉吉西高等学校PTA会長	松本 直幸	日野高等学校PTA会長	石原 和人

生徒・保護者から専攻科存続を求める意見

1 経済的理由等の声

- ・経済的弱者の切り捨てに直結する
- ・浪人することになって予備校では経済的負担が大きい。自宅通学できることで本人の心理的負担も少なく安心して勉強できる。以上のことから専攻科存続を望みます。
- ・経済的に負担が少なく通学に便利です。学習指導・環境に慣れているため勉強に集中しやすいと思います。
- ・専攻科がなくなると親の経済的負担が大きくなる。保護者・生徒の意見を無視していると思う。私立予備校本位の廃止としか思えない。私立予備校は自己改革し生徒に魅力あるものにする努力をしないで救済のみを求めているとしか思えない。全国でこの専攻科があるのは鳥取県だけというのは、それだけ県民のニーズに県がこたえている、他県に類を見ない特色ではないか。伝統ある、また存続意義のあるものなので、他県にないという理由でなくすのはおかしい。多額の県費がつき込まれていることに関しては、受験生を持たない世帯にとっては不平等なのかもしれない。いろいろな立場の人を勘案するならば、専攻科の授業料は所得に応じた負担軽減も考えなければならない。
- ・存続を強く望みます。鳥取県は所得水準も低い地域であり、県外の予備校に行かせる余裕のある家庭ばかりではありません。少子化が進む中、安心して子供たちを大学にチャレンジさせる環境をあたえてこそ、少子化の歯止めにもなります。
- ・経済力のない家庭でも、教育を受けられるということが大事だと考える。公的施設は必要。
- ・上の子が専攻科でお世話になりました。特に我が家のように家計が厳しい家庭には本当に助かりました。ぜひ存続を希望いたします。
- ・鳥取県は全国的にも所得が低く、このような専攻科をなくすと、低所得者は進学が狭くなる。廃止は時代に逆らったこと、鳥取県には逆に必要だと思う。
- ・専攻科に入ったのは経済的理由からでした。将来の自分の夢の実現のため、大学進学が不可欠であり、経済的理由のせいで進学を望めないのだとしたら、親も子もあまりに不幸です。うちでは専攻科に入学出来て、本当に良かったと思っていますが、是非とも後に続く子供たちのためにも存続して頂きたいと思います。
- ・専攻科は存続すべきである。なぜならば、浪人をよぎなくされた場合、次回の入試にむけ、勉強したくても経済的な理由で民間の塾には行けない子供も多いはずである。レベル的にも高く合格率も決して低くない。勉強したい子供たちのために、是非存続してほしい。

2 生活面・環境・精神的負担等の理由の声

- ・経済的に助かります。自宅から通えるので安定した生活ができます。経済優先ではなく、成長・

自立の準備ができる環境が得られると期待します。専攻科の存続を希望します。

- ・私は専攻科に通っていました。精神的にも落ち着いて勉強できました。友達との絆も深まりました。また、金銭的にも助かりました。高校現役の状況を継続しながら学習出来る環境を後輩にも残してください。
- ・浪人した場合、なるべく全国レベルの予備校に行かせたいと考えますと専攻科が良いのではと考えます。県外の予備校ですと生活費、予備校の費用と高くなりますし、何より予備校での生活で勉強に集中しなければいけない時期に生活面での心配があり、そのほど成績アップは望めないかもしれないと思われます。本人さえ頑張れば専攻科でも全国レベルの大学へ入れると考えます。
- ・専攻科の存続を強く希望します。再度受験にトライするとき、地域的にも慣れた環境で落ち着いた気持ちで受験に立ち向かえらると思う。親の立場からしても、少しでも負担を少なくして次の段階の大学へも備えたいと思います。
- ・浪人という不安定な状態を、勉強のみならず生活面、精神面にも行き届いた先生方の指導のもとで送れているということは、子供のみならず親としても心強く感じています。
- ・家を出て予備校に通うと、勉強だけでなく新しい環境へのストレスがあり、都会生活に慣れないといけないということで負担になる。

3 専攻科の優れた進路指導についての声

- ・高校教師の指導が受けれるのは大変有意義である。
- ・少子化とはいえ全国的には進学率は高くなっている。受験に失敗しても親元を離れることなく学生服を着て通学でき、資格のある優秀な先生方に教えていただけることは安心できる。
- ・大学合格率が高いのはとても評価できると思う。上の子どもがお世話になり難関校に入学した。やる気を引き出してくださった先生方の指導力、環境は大学受験専門の予備校以上に優れていると思う。
- ・金銭的にももちろんだが、専攻科の過去の実績を考慮すると信頼できる。また、親元から通学できる安心感もある。たとえ授業料アップになっても存続を望みます。公的な専攻科の意義は県民意識に浸透していると思います。
- ・是非専攻科を存続させてください。専攻科は高校と直結しておりその時々に変化する大学入試に柔軟性をもって対応できると思われる利点がある。また指導陣は高校の教師であり、高校からの一貫した指導体制があり、受験生にとっては大変集中して入試に取り組むことができる。
- ・費用の面でも助かるし、授業も予備校に劣らずしっかり指導して下さるし、親身になって生徒の相談にのって下さり、存続して欲しい。
- ・専攻科の先生方は、とても素晴らしい力量をお持ちで、お世話になった子どもたちが人間的にも学術的にも大変良い影響を受け、「人生の師」としている実績を考慮して、存続していただきたい。
- ・ただ受験勉強をするだけなら予備校で事足りるとは思いますが、専攻科は『学び』が出来ると

いう面で予備校とは全く質の違うものだと思います。「専攻科に行っていなかったら(様々な論や考えや知識など)何も知らないまま大学に行っていたかもしれない」とある先輩は言っていました。私もここに来たことで自分の持っていた考えや偏見が根本から大きく揺さぶられた1人です。夏休みに専攻科へ挨拶に来ておられた沢山の専攻科OB・OGを見ていると、どれだけこの場所が卒業生に愛されているか、どれだけ多くの先輩方がここで『学び』をやっていたかが分かります。もしここがただの「勉強」をする場であったなら、これ程の人がわざわざ専攻科に訪ねてくることはないでしょう。本当に経済的に苦しい人がいるのも事実です。そういった人たちの為にも専攻科はあるべきです。「税金の無駄だ」と言われる方もあるとは思いますが、しかし、専攻科を卒業する多くの人が専攻科で学んだ精神を社会に出ても持ち続けたとしたら、税金以上の価値あるモノが、県にいずれ返ってくるはず！専攻科は、我々の後輩のため、そしてこれからの社会のために存続すべきだと私は考えます。

4 県内予備校に対する不安の声

- ・都会と同じレベルの授業内容が期待できず、専攻科のような進路指導と授業が保証されていない今、専攻科以外に教育レベルを維持するものはない。授業料値上げを検討してでも存続してほしい。
- ・予備校があるとはいっても十分な指導がうけられるのかという不安が残る。都会のように選択が出来ない。
- ・民間の予備校(レベル)の整備が充分でなく、現状では県外での浪人を余儀なくされる。

5 全国に誇れる専攻科制度についての声

- ・予備校の利益でなく、子供の利益を最優先にすべきです。専攻科のせいで予備校の経営が苦しいといっているように聞こえる。日本で唯一専攻科を設置している鳥取県を誇るべきです。企業なら自らの努力で専攻科と競ってください。
- ・鳥取県だけ専攻科があると考えのではなく、鳥取県だから専攻科がある、と考えてほしい。逆に全国に発信すべきです。鳥取県の独自の取り組みとして誇りをもってほしい。
- ・貧しくともレベルの高い大学に行き、勉強したい子供たちもいるのですから、その点もよく考えて欲しいと思います。ある意味で専攻科は教育の格差を是正する最後の砦と思っています。
- ・我家は経済的に苦しいのですが、子供には夢があり、国立大学を目指していましたが失敗してしまいました。本来ならその時点で夢をあきらめなければなりませんでしたが、ありがたいことに専攻科という選択肢があり、更に授業料も半免の認定をされ、政府のうたっている再チャレンジをすることができ喜んでおり感謝しています。今後私どものような状況の家族が出てきたときに、このような学校がなければチャンスもなくなってしまいます。世間は甘くなく、厳しいものだと言ってしまえばそれまででしょうが。格差是正に貢献しているこの鳥取県独自の制度を是非とも鳥取県の良い「いろ」として残してってください。

専攻科存続に関するアンケート

専攻科のある3校の在校生とその保護者及び、専攻科在學生とその保護者に対して行ったアンケート

調査対象: 在校生およびその保護者

- 1 存続してほしい
- 2 廃止してよい
- 3 わからない

	在校生	在校生保護者
存続してほしい	83	90
廃止してよい	6	5
わからない	11	5

(数値は%)

志望校には入れなかった場合

- 1 専攻科に行かせたい
- 2 市内の予備校に行かせたい
- 3 県外の予備校に行かせたい
- 4 その他

	在校生	在校生保護者
専攻科に行かせたい	76	84
市内の予備校に行かせたい	9	6
県外の予備校に行かせたい	5	3
その他	10	7

(数値は%)

調査対象: 専攻科在學生およびその保護者

- 1 存続してほしい
- 2 廃止してよい
- 3 わからない

	専攻科生	専攻科生保護者
存続してほしい	96	93
廃止してよい	2	2
わからない	2	5

(数値は%)

専攻科を志望した理由(複数回答)

- 1 家から通学できる
- 2 健康管理・生活管理を学校で行っているから
- 3 授業料等経済的な問題
- 4 専攻科のレベルの高さ
- 5 市内に行きたい予備校がないから
- 6 その他

	専攻科生	専攻科生保護者
家から通学できる	59	76
健康管理・生活管理を学校で行っているから	23	32
授業料等経済的な問題	70	90
専攻科のレベルの高さ	41	38
市内に行きたい予備校がないから	11	8
その他	13	20

(数値は%)